

編集後記

(64巻 第10号 2018年10月)

スポーツ界でのパワハラが社会問題となっている。上下関係の厳しい集団なので、指導者に権力が集まりやすく、なんでもない言動がパワハラ的な意味合いをもってしまうこともあるのだと思う。

医師や研究者を含めて、どの社会にもパワハラ問題は存在する。上下関係や命令系統のある組織においては、上司の言動には常にパワハラ的要素があるといっても過言でない。部下の能力を伸ばすためには厳しい指導が必要な場合がある。暴力は論外かもしれないが、厳しい指導とパワハラの間引きは難しい。自分や組織のことよりも部下のことを思いやる気持ちがあるかどうか、唯一の判断材料かもしれない。

(小川 修)